

進路講演会を開催しました

6月3日(金)と6日(月)に「進路講演会」を開催し、進路について、深く考える機会となりました。



あなたにとって「支え」になるものは何ですか

6月3日(金)は、服部記念病院から、片山美智代さんと中条真由美さんをお招きし、「一みんなて考えよう 看護の出前授業」と題して、中学校卒業後のキャリアプランや「命」について、ご講演をいただきました。

「『人生の最後の時間を過ごす患者さん』が多いなか、『苦しくても穏やかになる瞬間がある』、それは決して奇跡ではない瞬間なんです。」「誰もが何らかの『苦しみ』を抱えていて、その苦しみは『希望』と『現実』の開きによって生まれます。」など、片山さんの言葉には、驚きと気付きがたくさんありました。

私たちは、病気でなくても誰もが大小様々な「苦しみ」を抱えているけれど、「支えとなる関係」「選ぶことができる自由」「将来の夢」の3種類の「支え」があることで、「苦しみ」が「穏やかに」変わっていくそうです。「苦しみ」を抱えている人の相談に乗るとき、どうしても「勇気づけたい」「励ましたい」という気持ちになります。が、それが必ずしも苦しんでいる人にとって嬉しいことではないそうです。その人の言葉を「反復」し、「理解してくれている」と感じてもらうことが「支え」になり、その人の「本当の苦しみ」が見えてくるそうです。



同じ志をもつ仲間がいる。子どもたちやお年寄りの居所でありたい。必要とされる病院でありたい。そして何より、苦しむ人をわかってあげたいという変わらない思いが私の「支え」です。

片山さんは、「看護師」という仕事をする中で、様々な経験をされてきました。その中で、たくさん落ち込んだけれど、そのたびに、いろいろな人やものに支えられ、今の自分があるとおっしゃられていました。

3年生であるみんなも、コロナ禍による様々な制限があるなかでの活動を強いられてきました。その度にもみんな支え合って乗り越えてきました。今、目の前に「進路」という共通のテーマがあります。いろんな思いや考え、苦しみ、悩みを抱えていたり、これから抱えていく人もいたりすると思います。そんな時、片山さんの言葉を思い出して、これからも「支え合って」乗り越えていきましょう。

高校入試は自己選択による人生のスタートライン！

6日(月)は、奈良県立西和清陵高等学校から米倉信岳先生をお招きし、中学校卒業後のキャリアデザインや、何のために勉強をするのかなど「高校入試に向けた心構え」についてご講演をいただきました。

「高校ってどんなところ?」「居心地のいい人ってどんな人?」「大切にすべき人ってどんな人?」「キャリアって何?」「人生で一番充実していると言えるのは何歳ぐらい?」「なぜ上牧二中に通っているの?」「なぜ

〇〇部に入部したの?」「嬉し涙を流した経験はあるか?」など、講演では、たくさんの質問が投げかけられましたね。あの場で質問に答えられた人も、うまく答えられなかった人もいました。みなさんなら、これらの質問にどのように答えますか?

最近の若者の特徴として「〇か×には答えられる」けど「理由は答えられない」というものがあるそうです。「Why?」に対する答えに「Because～」で答えるのではなく、「Yes か No」で、あげくは「I don't know.」と答えてしまうことが多くなっていませんか?就職する場合、企業が求める人材は「コミュニケーション能力の高い人」です。自分の考えや意見を「具体的に」説明できる人、自ら思考し、場所を選ばず実力を発揮できる人が求められます。「アイデア力」や「実行力」が求められているのですね。

ではこのような力はどのように培っていくのか。



講演では「にんじん」「じゃがいも」「たまねぎ」の写真が提示され、「この食材に何かを足してできる料理は?」と質問されました。「カレー」「シチュー」などの意見が出ましたが、その後は、なかなか料理名が出てきませんでした。米倉先生が「ポテトサラダも作れるね」と言われた時は、「ほんまや」という反応がいろんなところで見られました。みなさんは、他にどんな料理を思い浮かべますか?

ここで試されているのが「アイデア力」です。米倉先生は、この食材をそれぞれ「英語」「数学」「理科」など、みなさんが普段から学習している「9教科」にたとえて、これらの学習により得た様々な知識が「アイデア力」につながるということを教えてくださいました。中学校で学習していることは、これからの人生に向けての「アイデア力」を高め、可能性を広げることに繋がっています。「苦手を克服する」もいいし、「得意を更に伸ばす」もいい。自らの可能性を広げるため、日々の学習に励みましょう。

また、これから迎えるであろう(すでに迎えている?)「2045年問題」についても話をしてくださいました。「人間の仕事」が「AI(ロボット)」に取って代わるといふものです。不安に感じた人もいたと思います。だけど、「AIにできないこと、人間にしかできないこと」があります。それは、「新しい価値を見出すこと」です。「AIは歴史と同じ」過去を蓄積して未来を予想することしかできません。人間のように「新しいものや価値を見出すこと」はできないのです。やはり「アイデア力」が必要ですね。

「人生100年時代」、中学校卒業後の人生は80年以上続きます。中学校卒業後に「進学する」のか「就職する」のか、いずれにしても、「何のためにその進路を選ぶのか」具体的に考える必要があります。今回の講演を良い機会にし、これからの進路について、まずは自分で考え、そして、保護者の人ともよく話し合ひましょう。

先を見通す眼を持って

人、遠き慮り無ければ、
必ず近きに憂いあり。



3年生では「論語」を学習しました。右は「孔子」の言葉です。

将棋のプロ棋士は、次の一手を打つとき、数手から十数手先までの展開を読みながら打つのだそうです。先々の展開までを予測して駒をすすめることで、たとえ劣勢でも起死回生の一手に繋がるのではないのでしょうか。逆に優勢であっても、その一手を間違えれば敗北するかもしれません。

私たちはどうでしょうか。今回の講演会では、「可能性を広げること」について多くの学びがありましたね。これを機会に、十年後や二十年後、もっと先の人生について考えてみましょう。

進路講演会感想 ～片山さんのお話を聞いて～



- ・受験が近づくにつれて、いろいろ苦しくなるときが多くなり、それで周りの人がいつもと様子が違ったら励ましをするのではなく、支えていこうと思いました。
- ・病院で働くときには、技術だけでなく、患者さんや他のスタッフさんとのコミュニケーションが必要なのだと思いました。片山さんが「何と返せばよいのかなやんだ」というお話や、私が見ていた「ラジエーションハウス」というドラマの中でも、会話は必ず人を救ったり、人とのつながりを深めるものだと感じたからです。
- ・患者さんの話を聞くときのコツを知って、真の「聞き上手」とはこういうことなんだと感じました。
- ・服部記念病院からのメッセージが心にひびきました。とくに、「自分がちっぽけでも、自分が好きになれなくても、明日人生が終わるとしても、その苦しみに気づき、支えになるものは何か～」がとても心にひびきました。
- ・私の母は看護師です。母はたまに患者さんと接する練習を私を使ってしてきます。だけど、毎回思うのは、こんな優しくかったら患者さんは安心だろうと思います。
- ・自分の母が病気にかかったとき、あんまり自分は何もできなかったなと思っていたけど、心の支えになるようなことはできていたかもしれないと思った。
- ・片山さんが話していた「相手から見てわかってくれる人、苦しみをわかってくれる人になることが大切」ということについて、私は、そうだなと納得しました。～励ますことで本当に大事なものは、相手の言いたいことをキャッチし、言葉にして返すことなんだなと改めて学びました。
- ・自分ではあまり意識していなかっただけで、辛いときは支えになってくれているものがあったのかなと思いました。
- ・現場で見てきた人の患者さんへの関わり方や看護の最前線で働いている人ならではの思いや感情、死を間近にひかえた人たちについて聞いて、とても勉強になった。また苦しんでいる人に心配や同情をすることが必ずしも苦しんでいる人を救うことにはならないと聞き、将来困っている人を助けることができるかもしれないと思った。
- ・僕はまだ片山さんにとってのマザー・テレサのような自分の人生が一変するような人や物に出会ってないのでそんな人や物に出会えたらいいなと思います。また、誰かに大きな刺激をあたえられるような人になりたいなと思います。
- ・将来、相手の苦しみが100%分からなくても、相手に「ちょっと元気になれた！」といってもらえるような、相手の苦しみの隣にいてあげられるような人になりたいと思いました。
- ・苦しみについて話を聞いて最近一番考えほしいと思ったのは、しょーもないけど宿題がソパッと浮かんで、何でもかを考えると多分周りの人より宿題に時間をかけてしまっていると私は思いました。けど私はみんなと同じように宿題が出ているし、終わったら遊べると考えていつもがんばろうと思わされているので、こんな小さいことにも「支え」って必要なんだなと思いました。
- ・「選べないとつらい」に丸をつけたとき、「あたり前なこと」と感じた私はとても幸せだと思いました。
- ・自分を認めることってすごく大事だと思いました。私も認めるというか、もう少し自信を持っていきたいなと思いました。そうしたら、多分もっと前に進めるんだらうななと思いました。
- ・この講演で思ったことは、どうしても解決できない苦しみは常に乗り越えようとする苦しみが増えるだけなので、一時的に目をつむることが大事だということです。友達と話したり、気を紛らわせられることをして、常にその辛い現実と向き合うのではなく、心のどこかでそのことを意識しているけど、そのことをあまり気にしない時間を作ることが、これからの受験生活に役立ってくるんじゃないかと思いました。
- ・脳にスイッチがないなんて初めて知りました。～脳をやる気にさせるやり方を覚えておいて、受験勉強でやる気が出ないときは、やる気にさせるやり方を思い出して、実践したいです。
- ・明確に「何かをしたい！」というものが今はまだないので、探していきたいです。将来したいことを自由にできている大人になれたらいいなと思います。
- ・仕事として難しいのは、技術じゃなくて、患者さんとのコミュニケーションなんだと思いました。～人間にはやる気というものがない、脳をだましてやる気をつくらうと言ったことも知れて楽しかったです。目の前のことを真剣にしていたら大丈夫かもしれないと思ったので、とりあえず、この感想をいつもよりよく考えて書きました。

進路講演会感想 ～米倉先生のお話を聞いて～



- ・今後は、自分の夢のために、今、大の苦手な“コミュニケーション能力”を頑張って手に入れます！そのため、反対されるとイラッとしちゃう自分だけけど「10秒数える」とか「えっなんで？」と落ち着いて意見をきけるようにします！
- ・自分はあまり進路について詳しく考えがさだまっていないけど、今回聞いたことで、ただ高校に行くだけじゃなく、なぜその高校に行きたいかなどでも、しっかりと答えられるくらい真剣に考えないといけないなと思いました。
- ・僕は人生で一番充実している歳は16歳ぐらいだと思っていたけど、何歳になっても人生は充実しているということに驚きました。
- ・「みんなが高校に行くから自分も行きたい」ではなくて、しっかり理由を考えることが一番大切だと思いました。「分からない」だけで終わらずに時間をかけながら自分なりの答えを探したいです。
- ・この先、何かをするたび、自分自身に責任がともなうということを言われたので、自分のしたいことや向いていること、できることのような視点から、自分の将来を決めて、何十年後になっても充実した人生を送れるようになりたい。
- ・私は自分の短所ばかり気にして、長所をあまり見つけていません。ポジティブに考えることが苦手です。自分がどんな人なのかを知って短所を減らしつつ、長所を増やしていけばいろんなことが前向きに進むんだなと思いました。
- ・成績を伸ばすためには、自分が分からないと思うところを知ることだと知ったので、まずは、どこが分からないのかを知ることから始めようと思いました。
- ・勉強が将来にどれだけ必要なのかということも改めて気づけました。私はわからないところがあったら、まあ～将来に関係ないしなと思ってしまったときもあったけど、そういう考えはだめだということにも改めて気づけました。
- ・「なぜ？」という質問に答えられる人が少ないという言葉にドキッとしました。～だから今日のお話の中ででてきた「自己理解」をしてみようと思います。スマホやテレビの時間をけずって、自分と向き合ってみます。
- ・「うれし泣きは努力した人しかしない」という話で、私も最近うれし泣きをしました。その理由は「友達の叶えたいことを、長い時間をかけて協力し、それが叶った」ということでした。改めて考えてみると、友達本人はもちろん、私も努力ができていたんだなと思いました。
- ・自分はうれし涙を流したことは無いと思います。が、バドミントンの「ハセガワ」さんの話をきいて、へーと思いました。僕も入試のとき、うれし涙を出せるぐらい勉強を頑張りたいです。
- ・僕は今まで内申点を上げ、良い高校に行くことだけを目指して勉強してきましたが、今回の講演で、良い高校に行ってもそこがゴールではなく、そこからどう社会に出て役に立つ経験やスキルを学ぶのが大切だと知りました。また、自分に合った高校を選ぶことも大切で「頭が良い高校だと言われているから」とか「親に言われたから」ではなく、自分が将来どうなりたいか、それを踏まえて何を学ぶべきかを考えることが大切だと学びました。
- ・自分で行きたい高校を選べるうれしさがあるけど、そのかわり失敗するとこれからの将来大変なことになるかもしれない不安などがたくさんあるなと思いました。だからこそ、オープンスクールに行ったりして、その高校のことをよく知ったうえで将来悔いのない人生にするためにしっかり選ぼうと思いました。
- ・どんな経験でも絶対将来の役に立つということが分かりました。私が今までしてきた発表会での緊張や試合で負けたときの悔しさ、点数を取ったときの喜びなどいろいろあります。このことが将来のためになっていると思うと嬉しいです。
- ・どれだけ自分で決断することが重要なのか学びました。今まで「父や母の言うとおりにしていたら大丈夫」と思ってばかりで、「自分で考える」ことをしていないことに気づきました。
- ・今を楽しむだけでなく将来困らないようにするために、頑張らないといけないことは頑張ろうと思いました。
- ・自分の行きたい高校はあるけど、やっぱり面接とかで今の自分だと質問されても、面接官を納得させることができないなと思いました。なので、自分の行きたい高校に受かるように勉強したり、言葉をちゃんと理解してもらえるよう頑張りたいです。
- ・英語があまり好きじゃないけど、にんじんとたまねぎとじゃがいもの話をきいて、五教科も実技教科も頑張って勉強しようと思った。